

# 郷土資料館の

# お宝探訪

Treasure  
11

大正7年に発行された

『**国定教科書**』

郷土資料館の大事な仕事のひとつに、播磨町の歴史を彩る様々な資料の収集や保管があります。本年度は、数ある資料館の収蔵品のうち、代表的なものを紹介していきます。広報はりまの掲載月にあわせ、関係資料を展示します。ぜひ本物を見に来てください。

播磨町郷土資料館 ☎079(435)5000

明治5(1872)年、「必ず色

に不学の戸なく家に不学の人なからしめん事を期す」と宣言された学制(学校制度)が發布され、日本の近代教育が始まりました。

そこで使用される教科書は、初めは許可制、検定制で発行されましたが、混乱があったことから、明治37(1904)年4月から、国や国の指定する機関・団体が著作・発行する国定教科書制度が採られるようになりました。

郷土資料館で所蔵する教科書は、国定教科書のうちの国語(読本)教科書で、大正7(1918)年に発行された『尋常小学国語読本巻一』(通称、「ハナ・ハト読本」といわれています)です。

明治37年から発行された戦前の国定教科書ですが、それぞれの時代背景によって、その内容が変化して、戦前の国定教科書は、

5期に分けられることが一般的に多いようです。

例えば、第1期は明治37(1904)～42(1909)年に発行された教科書で、明治時代後半の資本主義勃興期を反映した近代的な内容となっています。通称「イエ・スシ読本」といわれ、カタカナと絵との組み合わせで始まっています。

一方、最後の第5期は昭和16(1941)～45)年に使われた教科書で、忠君愛国の精神を鼓吹し、太平洋戦争期の決戦体制下の軍国主義的色彩が濃い内容となっています。

さて、大正7年発行の教科書は、第3期に分類され、大正7(昭和7(1918)～32)年の比較的長い期間使用され、大正デモクラシーの時代を反映する内容となっています。この時期の教科書は第2期の「ハタ・タコ読本」の修正

本も使用されましたが、全国的に採用数が少なかったようです。

通称「ハナ・ハト読本」は、児童自身を主人公にしたものや、童話・童謡などの文学教材をはじめ、外国紹介あるいは外国人の主人公など国際的視野に立った教材が多く採用されました。これが、児童に親しまれ、全国各府県の三分の二以上で使用された人気の教科書だったようです。

最初のページは「ハナ」で始まり、「ハト・マメ・マス」、「ミノ・カサ・カラカサ」と単語が続きます。その後「カラスガ キマス。ススメガ キマス。」など複文節が登場し、「サルカニ合戦」や「桃太郎」のお話も登場します。「マス」、「ミノ・カラカサ」など、現在では馴染みの薄いことが最初に登場するなど時代を感じさせます。

播磨町郷土資料館 館長 井守徳男



町の人口 1月1日現在

(住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,839人(+3人)

男…17,091人(+5人)

世帯数…14,191世帯(+10世帯)

女…17,748人(-2人)

